

## 第6回市立秋田総合病院病院建設検討委員会報告

1 日時 平成28年1月18日(月) 15:00～15:40

2 場所 理事長室

3 出席者

小松理事長(進行) 伊藤病院長 水俣副院長 松尾副院長 円山副院長  
中川内科診療部長 吹谷看護部長 南雲薬剤部長 本間事務局長  
糟谷事務局次長

福祉総務課(オブザーバー) 眞崎参事、西崎主査

経営企画室(庶務) 伊東室長、伊藤室長補佐

4 議題

(1) 検討状況報告書(成案)の検討について

(2) その他

5 審議経過

事務局

ただいまから第6回市立秋田総合病院病院建設検討委員会を開会する。  
会の進行は、委員会設置要綱の定めより理事長にお願いする。

委員長

本日は、検討報告書成案として、検討事項7の「事業規模」および「事業手法等」について検討することになる。

前回の建設検討委員会では、建替候補地の追加と評価、現在の病院を運営しながら現地建替を行う場合の手順について検討しており、その結果、「現地建替」の方向とすることとした。

これを検討報告書素案に盛り込み、市当局、市議会へ報告のうえ、原案に引き続きパブリックコメントなどの意見募集を行っている。

この意見募集についての状況および対応案について説明をお願いする。

事務局

(資料に基づき説明)

委員長

ただいま説明のあったことについて、何か意見等はないか。

委員

建物の長寿命化を図るべきとの意見だが、どういうことを言っているのか。こうしてほしいなど具体的な要望があるのか。

委員

全国的な流れとして官公庁の建物利用について、予防保全等を行うことで耐用年数以上に施設を活用してほしいとする趣旨の意見と思われる。

委員	一般論とすれば意見のとおりだが、患者数は2025年後頃から大きく減少していく中、この規模でさらに20年も維持していくのが良いかどうか、それよりは、30年位ずつで更新していった方が適切ではないかと思われる。
委員	一般のオフィス等だと、間仕切りを自由に設定し状況に合わせて利用できるが、病院の場合、一般建築物に比べ配管類の制約が大きいいため、長寿命化するの難しいと思う。
委員	病院に特化した意見ではなく、一般論としての意見と思われる。世間では、病院は完成したときから改築が始まると言われる位であり、一般の建築物とは違うと思う。
委員長	次に「事業規模」および「事業手法等」について説明をお願いします。
事務局	(資料に基づき説明)
委員長	本体工事費だけでなく、外構や解体費等の本体以外にも結構な費用が想定されている。工事費については、今、検討出来ることではないが、資材費等は今は最高であり、中国を始めとした世界経済の減衰や原油・鉱物資源のだぶつき等から考えると、今後は資材も安くなっていくのではないかとと思われる。デザインビルド等の手法について説明をお願いします。
委員	<p>契約手法は、来年度以降の検討となるのだが、デザイン（設計）とビルド（建設）をどう組み合わせるのかということである。デザインビルド（DB）は基本設計、実施設計までのデザインと建設のビルドを一緒に行うことで、施工期間の短縮や施工を想定した設計が出来るなどのメリットがある。その一方、金額内での設計となるため望む物が出来るかチェックも重要となる。DBの中でも実施設計だけと施工を行うのが、次の基本設計＋DBという形である。</p> <p>E C I は、直接、施工者が設計しないものの設計段階から関与するものであるが、その関与の仕方が難しいといわれている。</p> <p>従来型は、設計は設計業者、施工は建設業者が行うが、施工段階で設計以上に工事費がかさむ可能性もあるなど、各手法ともメリット・デメリットがある。なお、P F I は、病院建設には馴染みにくいといわれている。</p> <p>次に、工事監督事務について適切かチェックする必要があるが、病院職員だけできちんと管理できるかという難しい部分もあるため、それを民間に委託するものである。</p>

このほか、これらの契約手法は時期にも関連があり、DBは設計前に契約してしまうため、今であれば単価の高い時点での契約になるなど、どの手法を選択するか検討が必要である。仮にDBでやるとしたら、基本設計からではなく、実施設計からとした方が金額面でのメリットはあると思う。いずれバリエーションがあるため、来年度以降の基本構想を受託したコンサルタント業者と話し合いながら検討していくこととなる。

委員長

今後、建設費は確実に下がってくると思う。

委員

このため、前倒しで契約する方法より、今まで通りの手法の方が競争原理が働く場面が出てくるため、事業費は抑えられると思う。

委員

また、設計段階でのコスト面の上昇を防ぐため、途中途中でコスト面の管理が必要となる。

委員

国立競技場は、どういう手法をとったのか。

委員

DBだったはずだが、うまくいかなかった。メリット・デメリットと言っても、管理次第でうまくいかないこともあるようだ。  
なお、DBでは、施工者が特許を持つオリジナル技術等を使えるため、コストダウンをはかれることもあるようだ。

委員

DBでは、発注者側の意図がうまく反映できないことがあるが、従来方式だと、設計者が発注者のかわりに注文をつけられるので、そのメリットはある。

委員長

本日の検討事項は以上だが、ほかに何かないか。

事務局

今回の検討をもとに、「市立秋田総合病院改築に係る検討報告書（成案）」を市当局、市議会へ報告のうえパブリックコメント等で再度、意見募集を実施する。  
その意見等を聞いた後で、次回、最終の建設建設検討委員会を3月中旬頃開催し、先の意見内容を検討したうえで年度内で報告書を提出する予定である。

委員長

では、本日の市立秋田総合病院建設検討委員会は、これで終了する。

以上